

ベトナムでの皆既日食

大室 恵昭

昨年南米ペルーに行った森 友和氏を中心に、一般参加者を含め12名でベトナムに向かった。天文雑誌による事前の気象記事では、一番天候条件の悪いとされたベトナムをなぜ選んだのか？

それは、事前調査、観測予定地出身の在日ベトナム人の話しなどからベトナムの海岸線は、ほとんど雨が降らず乾燥地帯である事が判明したからである。事実今回の日食では、私たちの場所は局地的な雲が発生したが、それ以外の地点ではパーフェクトな状況であった。

22日(日)

羽田発・関西空港からJALで5時間少々、日もすっかり暮れた小雨降るホーチミンへ。ホテルに向かうバスの窓から見る初めてのベトナムは、雑然としているがとても活気があり、街並の様子も含め昨年のペルー・リマの印象と重なってしまう。

23日(月) [曇 一時晴]

早朝4時、バスで目的地のファンティエットへ。まだ外は真っ暗なのにもう人々は活動を始め、生きるがためのバイタリティーのかたまりの感がある。リマの街ではワーゲンのかぶと虫の天下であったが、ここでは本田・スーパーカブの天下であった。

目的地まで国道1号線を200キロ。トラック、バス、バイクそして自転車、歩行者がマイペースで通行し、その合間を車がクラクションを鳴らしっぱなしで車線など無関係に走り抜ける姿は、バトル・レースそのもの。とても我々日本人には運転できない。

道路からちょっと目を離すと、そこには日本とまったく同じ田園風景が広がり心安らく。

8時過ぎ目的地のホテルに到着し、荷物を置いてから観測地の選定に出発。街から西に向かった海岸線に沿って3カ所と北東15キロ地点の牧場の計4カ所の中から牧場に決定。

24日(火) [晴 一時曇]

いよいよ本番。8時にホテルを出発。この国の、この街に、どこからどう集まったのか市内から郊外に向かう道路は大渋滞していた。一番問題の天気、早朝は快晴であったが、太陽が昇るに従って大きな雲の塊が北東方向から流れてきて嫌な予感がする。

【観測地】 FHAN THIET (ファンティエット) 北東約15km、標高約100m、平坦な牧場地。

北西2kmに Da Giong 山 (380m) がある以外は、展望良好。

東経108度11分59秒・北緯11度02分10秒 (GPS測定)

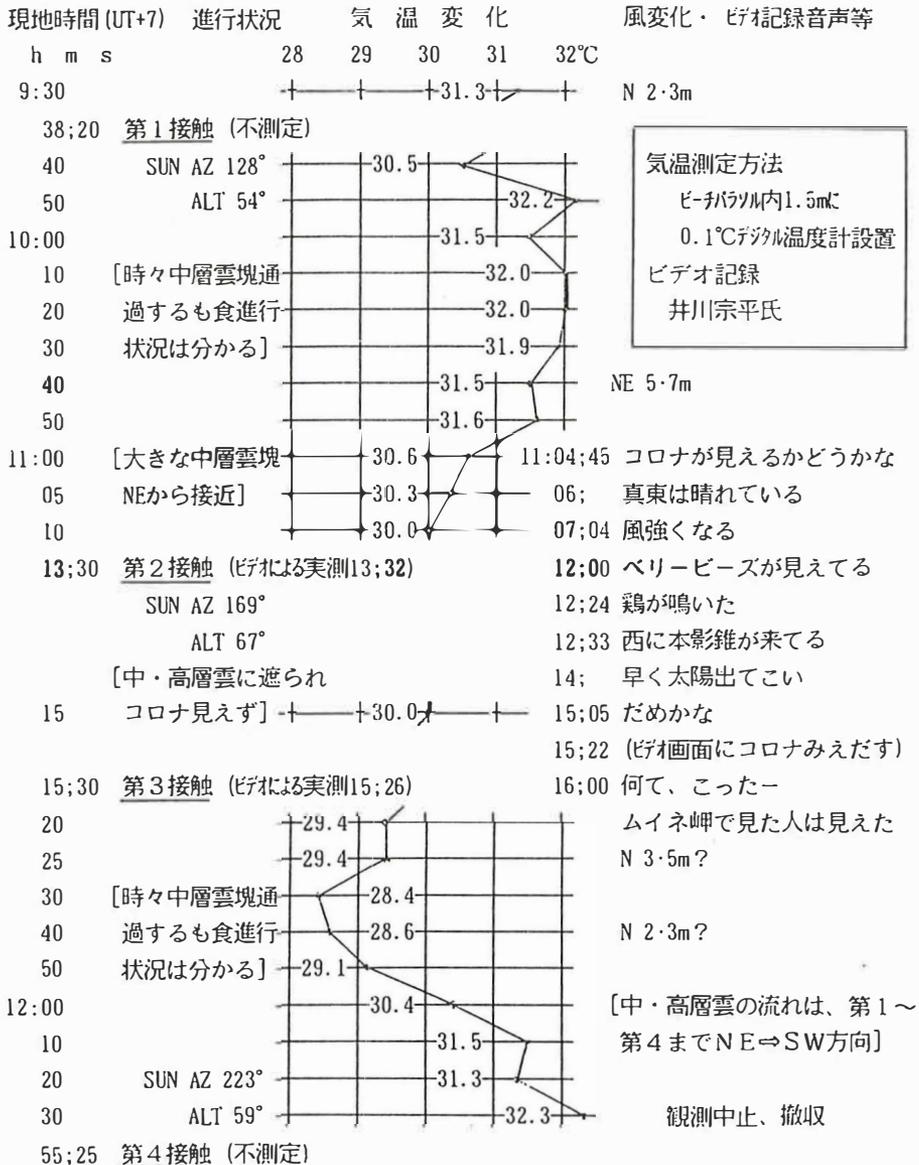
この観測地を使用した、主な外国チーム(現地確認)

- ・JTB赤坂 12名(我々) ・ロシア バス2台(内科学者9) ・風の旅行社 25名
- ・フランス バス1台(内科学者2) ・ベネッセ 15名程度 ・JALツアー 21名
- ・日本人個人旅行者 5名(ファンティエット周辺)

その他

ベトナム軍による警備、ファックス、電話、郵便臨時サービス、簡易トイレ

【その日・そのとき・その場所の様子】



25日(水) [晴]

自由行動。各自それぞれ市内見物、メコンクルージング、解放戦線地下トンネル見学。

26日(木) 朝 帰国

紀伊半島上空から富士山の美しい姿が見えた。